

野々市の雑貨屋

引札の中の取り扱い商品をみると、桶おけやほうきなどの「荒物あらもの」、化粧品や歯ブラシなどの日用品である「小間物こまもの」、干魚・塩魚の「四十物あいのもの」、そのほかにも塩や肥料、油、薬といったものを取り扱う、いわゆる雑貨屋がみられます。大正13年(1924)の野々市村には雑貨商が11軒あったと記録されており、人々の生活を支えていました。

うおずみ

魚住商店

現在の郷土資料館である旧魚住家住宅は、安政年間(1850年頃)に現在の白山市村井に建てられた農村の商家でしたが、明治33年(1900)に現在の本町4丁目の魚住家に移築されました。



旧魚住家住宅(市指定文化財)

魚住家は「ようや」という屋号で食品や肥料を売る商売をしていました。表から入ってすぐのミセノマ(土間)では、こんかにしん、野菜、菓子などが樽たるや陳列台ちんれつだいに並んで売られていたと当時の様子を知る人は語ります。

更に、引札をみると、取り扱う商品は調味料や文房具、たばこや燃料など多岐たきにわたり、現在のスーパーマーケットのような機能があったようです。

魚住商店は、昭和48年(1973)まで商売を続けました。建物はその後移築を重ね、平成5年(1993)に現在の場所に移りました。